

製品名: LIM キナーゼ 1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86557**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から 12 ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	Calculated MW:73 kDa; Observed MW:73 kDa

抗原情報

遺伝子名	LIM Kinase 1
別名	LIMK; LIMK-1
遺伝子 ID	3984
SwissProt ID	P53667
免疫原	ヒト LIM キナーゼ 1 の合成ペプチド

背景

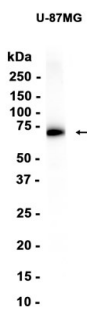
真核生物の LIM タンパク質は約 40 種類知られており、含まれる LIM ドメインにちなんで名付けられています。LIM ドメインは、2つ

のジンクフィンガーを含む高度に保存されたシステインに富んだ構造です。ジンクフィンガーは通常、DNA または RNA に結合して機能しますが、LIM モチーフはタンパク質間相互作用を媒介すると考えられます。LIM キナーゼ 1 と LIM キナーゼ 2 は、2つの N 末端 LIM モチーフと C 末端タンパク質キナーゼドメインのユニークな組み合わせを持つ小さなサブファミリーに属します。LIMK1 は、アクチン結合因子コフィリンのリン酸化と不活性化を介してアクチン重合を制御するセリン/スレオニンキナーゼです。このタンパク質は発生中に普遍的に発現し、細胞骨格構造に関連する多くの細胞プロセスで役割を果たします。また、このタンパク質は軸索の成長を刺激し、脳の発達に役割を果たしている可能性があります。LIMK1 遺伝子のヘミ接合性は、ウィリアムズ症候群における視空間構成認知障害に関与していると考えられています。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2011 年 2 月]

研究分野

-

画像データ



LIM キナーゼ 1 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した U-87MG 細胞抽出物のウェスタン ブロット分析。